

平成28年1級土木施工管理 実地試験(学科記述問題)

選択問題 (1)

No2 建設発生土の現場利用に関する次の文章の () の (イ) ~ (ホ) に当てはまる適切な語句を解答欄に記述しなさい。

1. 高含水比状態にある材料あるいは強度の不足するおそれのある材料を盛土材料として利用する場合、一般に天日乾燥などによる (イ) 処理が行われる。
天日乾燥などによる (イ) 処理が困難な場合、できるだけ場内で有効活用をするために、固化材による安定処理が行われている。
2. 一般に安定処理に用いられる固化材は、(ロ) 固化材や石灰・石灰系固化材であり、石灰・石灰系固化材は改良対象土質の範囲が広く、粘性土で特にトラフィカビリティーの改良目的とするときには、改良効果が早期に期待できる (ハ) による安定処理が望ましい。
3. 安定処理の施工上の留意点として、石灰・石灰系固化材の場合、白色粉末の石灰は作業中に粉じんが発生すると、作業者のみならず近隣にも影響を与えるので、作業の際は風速、(ニ) に注意し、粉じんの発生を極力抑えるようにして、作業者はマスク、防じんメガネを使用する。
石灰・石灰系固化材と土との反応はかなり緩慢なため、十分な (ホ) 期間が必要である。

答え---

- イ= 曝気乾燥
ロ= セメント系
ハ= 生石灰
ニ= 風向き
ホ= 養生

選択問題 (1)

No3 コンクリートの打込み・締固めに関する次の文章の () の (イ) ~ (ホ) に当てはまる適切な語句を解答欄に記述しなさい。

1. コンクリートを打ち込む前に、鉄筋は正しい位置に配置されているか、鉄筋のかぶりを正しく保つために使用箇所に適した材質の (イ) が必要な間隔に配置されているか、組み立てた鉄筋は打ち込む時に動かないように固定されているか、それぞれについて確認する。
2. コンクリートの打込みは、目的の位置から遠いところに打ち込むと、目的の位置まで移動させる必要がある。コンクリートは移動させると (ロ) を生じる可能性が高くなるため、目的の位置にコンクリートをおろして打ち込むことが大切である。
また、コンクリートの打込み中、表面に集まった (ハ) 水は、適当な方法で取り除いてからコンクリートを打ち込まなければならない。
3. コンクリートをいったん締め固めた後に、(ニ) を適切な時期に行うと、コンクリートは再び流動性を帯びて、コンクリート中にできた空げきや余剰水が少なくなり、コンクリート強度及び鉄筋との (ホ) 強度の増加や沈みひび割れの防止などに効果がある。

- イ= スペース
ロ= 材料分離 (粗骨材分離でも可)
ハ= プリーディング (又は遊離 [水])
ニ= 再振動
ホ= 付着

この過去問は受講者専用のページです。
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>